

いなわしろ

議会だより



平成21年5月臨時会・6月定例会

(町民健康マラソン大会)

5月臨時会・6月定例会のあらまし 2～3

予算審査特別委員会 4

一般質問 7人が登壇 5～11

委員会報告 12

町民の声 (猪苗代地区 東海林 洋子) 14

No.115

平成21年8月10日
発行：福島県猪苗代町議会

厳しい経済状況にどう対応するか

教育委員

教育委員について、町長から意見を求められ、次の方を選任することに同意しました。



(堤崎) 土屋 保則氏

A2 Q2 入札の結果、最低入札価格でない者を契約相手とした理由は、特殊な機械であることから、機種を限定せずに仕様書を提示し、予定価格内でのプレゼンテーションを受けた内容について、作業効率や導入実績等を評価し、最高得点の業者と契約を行いました。

A1 Q1 補助率10分の10の平成20年度地域活性化生活対策臨時交付金を財源にしています。

主な質疑

ビーチクリーナー

あらまし

平成21年度第3回臨時会は5月26日開催され、議会議員の議員報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例など15案件の審議を行い、全議案を原案どおり可決しました。

また、第4回6月定例会は6月8日から17日までの会期で開催され、平成21年度猪苗代町一般会計補正予算など17案件の審議を行い、全案件を原案どおり可決しました。

定例会では7名の議員が2日間にわたり一般質問を行い、入札制度、水環境保全対策、国民健康保険制度、後期高齢者医療制度、補助金制度、区長制度、まちづくり、町長のマニフェストなどについて町当局の考えをいただきました。



(ビーチクリーナー)

防雪柵

A3 Q3 防雪柵の設置場所はどこになるのか

釜井地区、新在家地区などに設置する予定です。

A4 Q4 不足した部分の補強なのか、新設なのか。

今まで設置していた部分についての補強です。

A5 Q5 補強であれば、古い防雪柵はどうするのか。

移動して設置する場合には、使用できる部材があれば使用する。

A6 Q6 国道、県道から町道に編入になった部分に防雪柵を設置してもならない場合がある。

町道として引き受けた路線については、一部使用できる部材を利用するなどして対応していきたい。

A7 Q7 標準の耐用年数は

標準としては8年程度ですが、場所によってはそれ以上使用している状況です。

主な条例改正の内容

○猪苗代町国民健康保険税条例

・高齢化などにより医療費が増加しており、財源を確保するため税率等の改正を行う。(緩和策として基金を繰り入れる→補正予算)
(賛成多数により可決)

○議員報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例

○町長等の給与及び旅費に関する条例

○教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例

・平成21年6月に支給する期末手当を0.15月分凍結する。
(賛成全員により可決)

○職員の給与に関する条例

・平成21年6月に支給する期末手当を0.15月、勤勉手当を0.05月分凍結する。
(賛成多数により可決)

中型バス

A8 Q8 中型バスの購入時期が今の時期になったのはなぜか。

4月に入札を実施しましたが、不調に終わりました。その後、仕様の変更等を行い、再度入札を実施したため、現在に至りました。

A9 Q9 購入時期が遅くなったことにより、従来のバスの車検を取らなければならぬのか。

納入時期が遅くなる見込みなので、7月の車検であり、繁忙期でもありますので、車検は受けなければなりません。



(中型バス：参考資料)

議員・町長等・教育長
職員の期末手当を減額



渡辺 二公 議員

町の情報公開について

Q1 町の情報公開請求に対する対応

A1 公開不能なもの、一部公開不能なものを除き公開しております。インターネット、郵送やファクシミリでの問い合わせも可能です。個人情報の公開は限定されますが、閲覧可能な情報、公開目的に取得した情報は公開しております。委員会の情報も公開しないと定めた場合や、公正もしくは円滑な議事運営が損なわれる場合を除き公開の請求が可能です。

入札について

Q2 入札時の通告内容、前払金について

A2 入札準備期間は建設業法及び町財務規則で定めた15日で特殊な機械、設備等の入札でも充分と考えております。入札参加者への通告内容は、入札に付する事項、場所、期間、入札保証金、契約保証金、入札執行の場所、日時、議会の採択の要、不要等です。



(町のホームページ)

厳しく
チェック!!

予算審査特別委員会

主な予算案件

- 平成21年度猪苗代町一般会計補正予算（第1号）
1,270万1千円を増額し、歳入歳出の総額を65億7,570万1千円とする。
- 平成21年度猪苗代町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）
基金7,000万円を取り崩し、国保税に充当する。
- 平成21年度猪苗代町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）
27万7千円を増額し、歳入歳出の総額を1億5,937万4千円とする。
- 平成21年度猪苗代町病院事業会計補正予算（第1号）
6,187万円を増額し、歳入歳出の総額を9億3,485万2千円とする。

主な質疑内容

- Q1** 歩いて暮らせる町づくり拠点施設整備事業費の委託料1,991万9千円の内容は。
- A1** 拠点施設（延床面積1,400㎡）の実施設計委託料が1,700万円、まちづくり交付金の申請に必要な都市再生整備計画の策定委託料が291万9千円です。
- Q2** 拠点施設実施設計委託の納期はいつか。
- A2** 既に発注している基本設計の納期が10月、今回予算化する実施設計の納期が3月を予定しております。
- Q3** 観光振興対策費400万円の内容は。
- A3** 「安全かつ滋味豊かな地元食材を切り口とした交流拡大事業」で、1つ目は調理師さんや学校の先生の交流事業、2つ目は会津地区のすばらしい食材の首都圏への情報発信PR事業、3つ目は事業の実施報告書の作成事業で、これらの事業を行うための委託料です。
- Q4** 病院事業の備品購入費2,335万9千円の内容は。
- A4** 電子カルテシステムの導入のため1,500万円増額し、その他必要な医療機器及び一般備品の購入に要する費用です。



渡部 英一 議員

猪苗代湖の水質日本一を 取り戻す町の対策は

Q1 猪苗代湖岸の清掃活動に関しては、町外の方のほうを意識が高いように思われるが、町内での湖岸清掃に対する意識高揚をどのように図るのか

A1 町では、毎年4月、区長を通じて町民総参加でクリーンアップ作戦、7月には河川クリーンアップ作戦を実施し、多くの方に環境保全活動にご協力いただいております。

猪苗代湖北岸については、地域住民だけでは対応しきれないので、県に協力を依頼し、県民総参加で清掃活動に取り組んだものです。

Q2 優良堆肥製造施設で湖岸から刈り取った草を堆肥に利用している現状は

A2 草を粉碎して堆肥に利用できるのは、10アールあたり、約1000kgになります。施設では試験的に毎日250kgを投入し、試行錯誤を重ねて様子を見ていますが、粉碎した草を年間どのくらい利用できるかについては、予測ができません。

子ども農山魚村 交流プロジェクト事業への 支援体制は

Q3 農山村で長期宿泊体験活動を行うプロジェクト事業へ、町は積極的に参画すべきでは

A3 子どもたちの学ぶ意欲や自立心、思いやりの心や豊かな人間性、社会性や生活技術が身に付くなどの効果が期待されるため、いなわしろ体験学習推進協議会を立ち上げ取り組んで参りましたが、モデル地区の認定が得られませんでした。

国民健康保険と後期高齢者 医療制度に問題はないか

Q1 資格証明書や短期保険証の発行は利用者優先で考えるべきではないか

A1 国保制度は崩壊寸前であると言っても過言ではないと考えており、今後は医療保険制度の一元化などが必要であると考えております。

国保制度が破綻しないよう町としては最大限に対応し、一般会計から繰入しなくても済むように健康づくりを推進し、公平なサービスを受ける機会を提供できるよう努力いたします。高齢者についても同様です。

介護保険制度はどのような 見直しが行われたのか

Q2 要介護認定の見直しなどにより、実態はどのようなになったのか

A2 要介護認定の調査方法と介護の手間のかかり方を判定するためコンピュータによるシステムの見直し等が行われました。そのため調査の際に、ご本人の普段の様子を詳しく伝えて頂くことが重要です。保険料は、3年に一度見直すことになっており、平成21年度の見込み被保険者数を基に、80万円以下の被保険者数が一番多い割合であることが判明したことから、第4段階を二つに細分し、低所得者に対する負担の軽減を図りました。

歩いて暮らせる まちづくり事業とは

Q3 どのような事業を行うのか伺う

A3 これから更に進む高齢化社会、地球温暖化の問題を考え、車から人中心の

また、町内においては、子ども達の年間教育課程がすでに決まっていることから、長期間の宿泊体験活動への参加は難しいものと考えております。



(猪苗代湖北岸ごみ撤去作業)



(中央商店街)

まちづくりに転換すべきであり、高齢者や子育て世代が安心して安全な生活のできる「歩いて暮らせるまちづくり」の実現を図るため、旧役場跡地に「子育て支援・健康づくり・世代間交流」施設と、小林栄先生が教育にあたった「猪苗代日新館」の機能を兼ね備えた複合施設を国土交通省の「まちづくり交付金」を活用して整備して参ります。



五十嵐ミエ子 議員



大橋 清喜 議員

高橋川の汚染の現状は

Q1 高橋川の汚れがひどいので、上流の実態調査を実施し、翁島駅前地区に下水道を整備すべきではないか

A1 全ての河川から大腸菌が検出されており、今後調査を行いたいと思います。家畜排せつ物は優良堆肥製造施設で処理する必要があります。高橋川周辺にも合併浄化槽の整備などが必要であると考えておりますので、今後検討して参ります。

高齢者福祉担当の対応は

Q2 保健所から指導を受けたと聞いているが、現状はどうなっているのか

A2 保健所から調理委託と配送面で十分注意するように指導を受け、容器を保冷庫で保管しております。町としては、シルバー人材センターの意向に沿って事業を支援して参ります。

シルバー人材センターへの支援は

Q3 シルバー人材センターへの補助金は、他の市町村に比べて金額が少ないと思うが、現状はどのようになっているのか

A3 町と国で同額の補助を行っておりますが、シルバー人材センターは社団法人であり、会員の努力では足りない部分を町が補助して参りたい。



(シルバー人材センター通常総会)

区長制度に物申す

Q1 区長制度の見直しが必要では

A1 区長制度は昭和40年制定後、見直しはしていません。現在、区長は111名で60歳未満の方は55名、勤めに出ている区長が41名です。選出方法は各行政区の自主性に任せており、地区説明会は夜に、町主催行事は休日を実施しております。町の事務遂行だけでなく、行政区の執行者としての活躍もあり、特に補助事業の申請は区長が多く、区長制度が無いと、行政効率の低下が懸念されます。また、議員と区長の兼任は自治法に抵触いたしません。区長の待遇の見直しは検討して参ります。



渡辺真一郎 議員

どう処理する固定資産税の滞納、不能欠損

Q2 倒産等による固定資産税の未納、不能欠損額と競売落札までの閉鎖店舗活用はどのようになっているのか

A2 倒産等による固定資産税2年以上の滞納は33件8300万円です。不能欠損は過去10年で2億1100万円です。所得、財産状態を総合的に判断し欠損としたものです。倒産後新しい所有者が決まるまでは管財人の権限になりますので、閉鎖店舗の活用は困難であると考えます。

どう対応する担当職員がいな

Q3 担当職員不在のときの対応及び公金の徴収体制はどのようになっているのか

A3 在庁職員で対応困難な場合は、担当者に戻り次第、ご連絡するなどの対応



(区長委嘱状交付式)

をしております。副担当制度を採用しておりますが、担当者でないと円滑な処理ができない場合もあります。徴収業務は原則2名体制で行っており、税金を除く公金については、今後、民間業者の活用による効率化を検討して参ります。



Q1 町の活性化のために交流人口を増やし、町が文化的にも経済的にも豊かになる具体的な政策は

A1 磐梯山や猪苗代湖、野口記念館などの観光資源、土津神社や小平瀾天満宮などの史跡がたくさんある地域であるので積極的にPRにつとめ、新たな観光資源を掘り起こし、この地域にしかない宝の掘り起こしによって地域の活性化を図ります。

地域に住む方々や事業者の方が必要とす

る猪苗代の品質の良い作物を、100%供給できる生産体制を作ることが大切で、自給率向上推進委員会を設置し、自給率を高める提言をいただきたいと考えています。

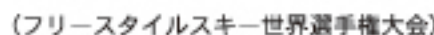
この地域の特色を引き出して、町内外、県外、世界に向けて発信していくことによつて、多くの方々にこの地域を訪れていただく、交流人口を増やし定住化に繋げるように活性化を図ります。

フリースタイルスキー世界選手権大会を今後のまちづくり
にどう活かすのか

Q2 この大会の開催は、町の歴史の中で大きな意味を持つが、今後の町の行政にどう活かすのか

A2 この大会を通じて培われた住民の総参加、協働ということを、新しいまちづくりに活かしていきたい。

また、協賛をいただいた会社、企業、多



くのスタッフ、ボランティアの皆さんのネットワークが構築されたので、それを活用しながら企業誘致、観光客の交流、定住等の活性化に繋げ、大会を継承する事業を県、町、県スキー連盟、組織委員会で協議し、町活性化に活かしていきたい。

町長の選挙公約はどこまで
実現されたか

Q1
のか 12歳までの医療費無料化は実現した

A1 選挙公約の中で「12歳までの医療費無料化と中学生の一部負担金一診療につき上限500円」とすることを3年以内の実現を約束しておりました。しかし少子化対策の緊急性から実施時期を早め、本年4月から対象年齢を15歳まで拡大し無料としたところです。町民の皆様にお約束した以上の内容を実現したものと考えております。

今後の課題は、社会保険加入者の方々が町外医療機関を受診された場合、並びに国保加入者の方々が県外医療機関を受診された場合におこなっている「償還払い」方式の解消と考えております。

全国学力テスト
体力テストの結果を
公表すべきでは

A2 全国学力テスト、体力テストの結果公表について、どう検討したのか伺う

Q2 昨年度につきましては、文部科学省からの通知により、学校名を明らかに

公表はしておりません。

本年度のテスト結果の公表等の取り扱い
は、文部科学省の通知内容を踏まえた中で
結果の公表の方法については十分検討いた
します。

全國體力・運動能力、學習習慣等調查

[illegible]

は昨年度参加致しませんでした。今年度は結果の公表等の取り扱いについて文部科学省から特に通知等はありませんので、教育委員会へ報告した後、公表できるものと考
えております。

行政視察を実施しました！ 常任委員会レポート



企業誘致とコミュニティ拠点施設を学ぶ 経済建設常任委員会

6月24日に福岡県小竹町を視察した。小竹町は、かつては炭坑の町であったが、石炭が石油に代わり、時代の変遷とともに人口が減少したことにより、平成5年に通産省の認可を受け、工業団地の造成に着手した。

団地の総面積は42.7haで現在8社が立地し、分譲済み面積が23.1haである。進出企業の主な業種は電気事業、プラスチック金型、シャフトなどで、特にトヨタ九州関連の企業が進出しており、造成は中小企業基盤整備機構が行ったため、企業誘致についても県と機構連携のもと行われた。

企業誘致の優遇措置としては、町工場設置奨励条例による従業員10人以上の製造業等で取得価格が2,700万円を超える企業に対して固定資産税を3年間免除する課税免除が行われている。

また、町雇用促進奨励金交付要綱により常用従業員を5人以上新規雇用する事業者に対し、町在住者1人につき10万円を3年間で300万円を上限として奨励金が交付されるとともに、町水道事業給水条例で超過料金1㎡当たり300円を250円に減額しており、これらの施策により立地企業の従業員数は295人となっている。

猪苗代町での企業誘致活動は、現在の経済全体の不況下にあって厳しい環境にあるが、一步一步着実に努力することが望まれる。

6月25日には熊本県菊陽町でコミュニティ拠点施設「さんふれあ」の視察を行った。

菊陽町は「豊かで住みよい田園環境都市」を目指している人口増加率が県内一の町である。

農村と都市の交流を目指した総合交流ターミナル「さんふれあ」の施設整備に取組み、平成18年には、菊さんふれあを指定管理者として選定し施設の運営にあっている。

施設は、地元食材販売所「さん彩」と温泉施設「さんさんの湯」などがある複合施設で、「本物の野菜作り」を合い言葉に、出荷から販売までを一貫して生産者責任のもとで行う出荷協議会会員が運営しており、年間売上は2億7千万で年々売上を伸ばしている。

「さんさんの湯」は、年間入湯者17万人、売上1億5千万円で、町からの補助金なしで黒字経営をしている。近隣で相次いでオープンした温泉施設は入湯者が減少傾向にあるが、「さんさんの湯」では歩行浴やサウナ施設を新設し「さん彩」との相乗効果を発揮して賑わいを見せている。

猪苗代町でも「歩いて暮らせるまちづくり」計画で旧役場跡地の拠点施設整備では、真に町民に愛される施設となるよう、検討委員会での活発な議論を望む。



総合交流ターミナル「さんふれあ」

防災と「安全・安心」のまちづくりを学ぶ 総務常任委員会

6月23日に徳島県松茂町、6月24日に愛媛県松前町で、防災を中心とした「安全・安心」なまちづくりについて視察を行った。両町とも今後30年で60%以上の確立で発生するといわれている南海地震に対応するため、防災体制に特に力を入れている町である。



(松茂町津波防災センター視察)

松茂町は、自主防災組織が防災活動に必要な防災資材の購入に対して補助金を交付するとともに、平成19年度に鉄筋コンクリート3階建、延床面積1,150㎡、1,080人収容可能な津波防災センターを建設し、備蓄物資を蓄え、災害に備えている。

松前町は、防災行政無線のデジタル化に力を入れるとともに、3月1日から全国瞬時警報システム(J-ALERT)の運用を開始し、町内に設置している屋外拡声子局や公共施設に設置している戸別受信機からサイレンや音声で緊急情報を瞬時に伝達して、早期の避難や被害の最小化に取り組むとともに、警察署や消防署から安全に関する情報を携帯電話に送信する「まさき安全安心システム」を開始し、防犯にも力を入れている。

両町の防災・防犯に対する現実的な施策は、今後本町の安全安心なまちづくり施策の検討にあたって特に参考とすべき内容である。

福祉バスと小学校英語教育を学ぶ 文教厚生常任委員会

6月29日、福岡県須恵町を訪問し、町の公共交通の現状の説明を受けた。町の公共交通として2台の福祉バスが町内5路線運行しており、町民は誰でも自由に無料で乗ることができる。午前9時から午後4時まで約1時間おきに運行し、通園、通学バスは13年度に廃止しており、園児、児童はそれぞれの家族の送迎か、徒歩での登校となっている。平成20年5月からはコミュニティバスと民間バスやJRとの乗り継ぎに配慮したダイヤや、スーパー、学校、公民館など生活利便施設や住宅地を結ぶルートなどが検討されている。地域住民のニーズを把握し、猪苗代町においてもルートなどを考慮した新たな公共交通の整備が必要と思う。

6月30日は長崎県長与町を視察し、小学校における英語活動の状況を見学した。平成17年度から全小学校で1、2年生は年間10時間程度、6年生までは年35時間の英語活動に取り組んでいる。内容は発達段階に応じて作成し、町内の外国人の協力を得て実施しており、子供達が外国人に

物おじせず自分を表現できる、中学で学ぶ英語への導入がスムーズである、町をあげての英語活動支援の雰囲気生まれたなどの成果をあげている。

教育環境に違いはあるものの、早いうちからの英語活動は、子供達が自然に国際的な感覚を身につけ、どのような環境の中でも自分を積極的に表現することができ、調和のとれた個性を育むには大切であり必要であると思われる。



(長与小学校の英語事業)

傍聴においで下さい。

9月議会は、9月7日(月曜日) 開会予定です。

町民の声



猪苗代地区
東海林 洋子

すべてを見直し、 次の世代にタッチ！

先行きが見えにくい今の時代、将来に希望を抱くことがむずかしく、無力感とあきらめムードが蔓延するのを感じつつ、日々の生活に追われている私たちです。

「議会だより」の「

「広報いなわしろ」に目を通すと行政や財政報告に失望、落胆することばかりです。累積する巨額な町債、人口の流失に歯止めが掛けられず、この先子や孫に猪苗代町をどう受け渡していけるか疑問です。残念ながら「変革」の息吹というものが感じられません。

今こそ一から出直す時です。すでに一部の知事や町長の情熱が変革を

もたらし、スタートし始めた自治体もあります。改革に向けての町長や議員を始め、職員の熱意、議員数の検討、業務内容の分析、行政の不作為の有無、これらに対して私達は無関心、放置を決め込まず強い関心を持ち、オンブズマン制度の無いこの町にあって、議会だよりや広報誌を隅々まで読み、厳しくチェックして行く必要があります。ほとんどの人は正直なところ「今すぐ見直しが必要だ！」と気づいているのでは。もはや先延ばしをする余裕はありません。

猪苗代町は私達だけの町ではありません。先人から一時的に預かったものです。預かりものですから私達はこの町を次の世代により良いものにして渡す義務と責任があります。猪苗代町は他に誇れる豊かな自然、歴史に恵まれた町です。しかも住民の中には隠れたタレントを有する人が沢山おられます。ぬるま湯世代、エゴ、しがらみ、馴れ合い、すべてを見直し、次世代の幸せを祈りつつ、願いつつ、新しい猪苗代町実現に向け次の世代にバトンタッチ！

春の叙勲



元猪苗代町議会議長大坂藤樹さんが、旭日双光章を受章され、7月31日(金)にリステル猪苗代において、叙勲祝賀会実行委員会による祝賀会が開催されました。

(おシンさんの嫁入り)



編集後記

水田のみどりが日増しに色濃く、たくましくなりました。

六月議会では、七名の議員が一般質問に立ち、町行政のあり方について質問しました。

二日間にわたり、熱心に質問や答弁の内容に聞き入っておられる町民の皆様のを拝見し、期待と信頼に答えなくては、と思う毎日です。

「議会だより」の早期発行に向けて、委員全員で励んでいます。

委員 渡辺 二公

議会広報編集特別委員会

委員長 渡部 英一
副委員長 佐藤 光幸
委員 大橋 清喜
委員 渡辺 真一郎
委員 五十嵐 ミエ子
委員 渡辺 二公
議長 関沢 和人